

谷上時子さんの戦争体験（茨城県猿島郡出身）

（録音の文字起し後、分かり易いように一部補筆修正）

岩戸南から来ました谷上です。東京大空襲のような悲惨な目には合いませんでした。当時はラジオもテレビもない、田舎の隅々まで戦争一色、軍国主義の時代でした。

昭和12年（1937年）小学校に入った年に支那事変（日中全面戦争）が始まり、南京陥落に湧きました。私たちも自分たちで日の丸の小旗を作り、バンザイ、バンザイと叫びながら旗行列をしたことを覚えています。また、戦地の兵隊さんに送る慰問文を書かされたこともありました。

昭和16年（1941年）12月8日、小学校5年生の時に大東亜（太平洋）戦争が始まりました。その時は戦争ということがどんなことか何も分からない子どもでしたが、翌年6年生になって、真珠湾攻撃の写真を見て先生の話聞いて、戦争ということを知りました。その頃、「あゝ軍神九勇士」という歌がありましたが、「猛き門出の九勇士」だったか、今でははっきり思い出せません。戦争はだんだん激しくなり、田舎でも警戒警報があり、学校では避難訓練をしました。避難訓練といっても防空壕などではなく、近くの林の中に隠れるだけでした。また、全校生徒で、当時は何のためにどんぐりが使われるのかも知らずに、村はずれまで拾いに行きました。その頃から高等科（小学校卒業後2年間）の男子生徒は学校の裏庭を耕して、麦や米を作っていました。

女の子は何していたのかな？覚えていないが、たぶん草取りぐらいしかしていない。その頃になると出征兵士も増え、毎日のように県道に送りに行くが、日の丸の旗を自分たちで作っていた。

私が6年生の時でしたが、母が叔母にお餅を届けるために、自転車に積んで、私と二人、朝4時に家を出て2時間も歩いて、やっと駅に着きました。自転車に乗れない私は空の自転車を持って帰るために一緒に行ったのですが、駅に着くとすぐに、お巡りさんが側に来て、お餅は持って行かれないと言われてしまいました。当時は戦争中なので、穀物統制とかあったのだそうです。母と分かれて、自転車に積んだ重いお餅を持って帰る私は大変でした。

昭和20年（1945年）3月、国民学校高等科を卒業した私は、近くの常総線の水海道（みつかいどう）駅に就職し、改札係になりました。私の家は漬物屋でしたが、塩が統制になり、塩が手に入らなくなって家業を止めざるを得なくなりました。その頃は、塩をはじめ砂糖も、子どもの運動靴まで何もかも配給制になっていました。

私が勤めて間もなくの頃、陸軍の兵隊が取手駅から下館駅まで移動するために利用した常総線内で、P51の機銃掃射に遭ってしまいました。それが私が勤める水海道駅と隣の小絹駅との中間でしたので、町の婦人会の人たち総出で、負傷した兵隊さんたちを戸板にのせ、近くの病院まで無言で運んでいたと、当日休みだった私は翌日になって聞きました。亡くなられた兵隊さんは一人ひとり真新しいお棺に納められて、翌日も待合室いっぱい山と積まれていました。でも次々に運び出され、夕方になり、小さいお棺が二つだけ残っていました。友だちと恐る恐る覗いてみると、ゲートルを巻いた片足とむき出しの片腕だけがあり、ひとりで涙が出ました。今考えても忘れられない悲しい思い出です。その頃、駅の上空を飛んでいたB29が銀色のテープやビラ等を落として行ったのを見て、テープを拾ってきました。どんな意図があったのでしょうか。

それから間もなくの 8 月 15 日。駅のラジオの前にみんなが集まり、玉音放送を聞きました。

その頃は、男の人は出征して少なくなった運転手を女の人が代わることになり始めていて、始めて女性運転手になった人が涙をぼろぼろ流して泣いていたのを見て、私たちも泣いてしまいました。絶対に勝つと思っていた戦争で負けてしまったので、悔しかったのが本音だったと思います。

戦争が終わって、改札を通る人たちも一変しました。何も考えられなくなったのか、それまで農閑期を利用して街の裁縫所に通っていた人たちの姿は見られなくなりました。代わりに多くなったのが、大きなリュックを背負った買い出しの人、焼け出され身体が不自由な人、復員軍人などでした。様々なことを想像しながらその人たちに接したのを思い出します。

戦争はもうしないと思っていますが、思い出すとなんで戦争になったのかなと思います。最近は何となく当時の状況も本から学ぶことができます。当時は国民が何にも言えない時代でした。今の日本は平和で自由ですが、世界ではまだ戦争をしています。日本に飛び火しないことを願っています。自由に何でも言える今の時代、皆さんと一緒に平和になること、政治が正しくあることを真剣に考える必要があると思います。

会場からの発言で補足

私の家に叔母の家族 4 人が疎開して来ていました。学校にも各クラス 2, 3 人は縁故疎開の生徒がいました。近所にもそういう子がいて、かわいいねと言いながら仲よく遊んでいました。また、学校の試験に混食とタケノコ生活（東京の人が着物をお米と取り換えること）の意味が出て、音楽はいつも軍歌、体操の時間は高等科になると女生徒はなぎなたの訓練で男子生徒は剣道や竹やりの訓練でした。

終了後、思い出したように話されたこと

終戦後、始めて電車に乗るという友達と一緒に上野公園に花見に行った時のことです。銅像さんの下の階段に座って、持ってきたおにぎりを食べ始めると、ぼろぼろの服を着た男の子たち（浮浪児）が 5, 6 人寄ってきて、黙って見ていたので、その時は可哀そうというより怖くなって、おにぎりを全部置いまま友だちと二人で逃げ出したことを思い出すことがあります。